

3.2 荒瀬ダム撤去に関するインパクト・レスポンスの想定

荒瀬ダム撤去の3つの事業段階のインパクトに対して、想定された物理環境変化とそれに応答する生物環境変化をレスポンスとしたインパクト・レスポンスフローを図3.2.1に示す。

物理環境変化は、「3.1 荒瀬ダム撤去の事業段階ごとに想定された環境変化」に基づき、荒瀬ダム上流区間及び下流区間における河川形状の変化、河床材料（底質[粒度組成]）の変化を想定した。また、荒瀬ダムは一般的な貯留ダムと比較して回転率が高く、化学的・生物的变化は小さいと考えられたが、ダム撤去事業は濁水発生の予防を考慮して慎重に撤去作業を実施してきた。このため、ゲート開放及び水位低下設備の運用における濁水発生（一時的な泥土の巻き上げ）、みお筋部の撤去における一時的な濁りの発生、これらに伴う下流区間の変化を想定した。

物理環境変化に応答する生物環境変化は、生物の生育・生息・繁殖の場が変化することによる生息種の構成の変化や個体数の変化を想定した。

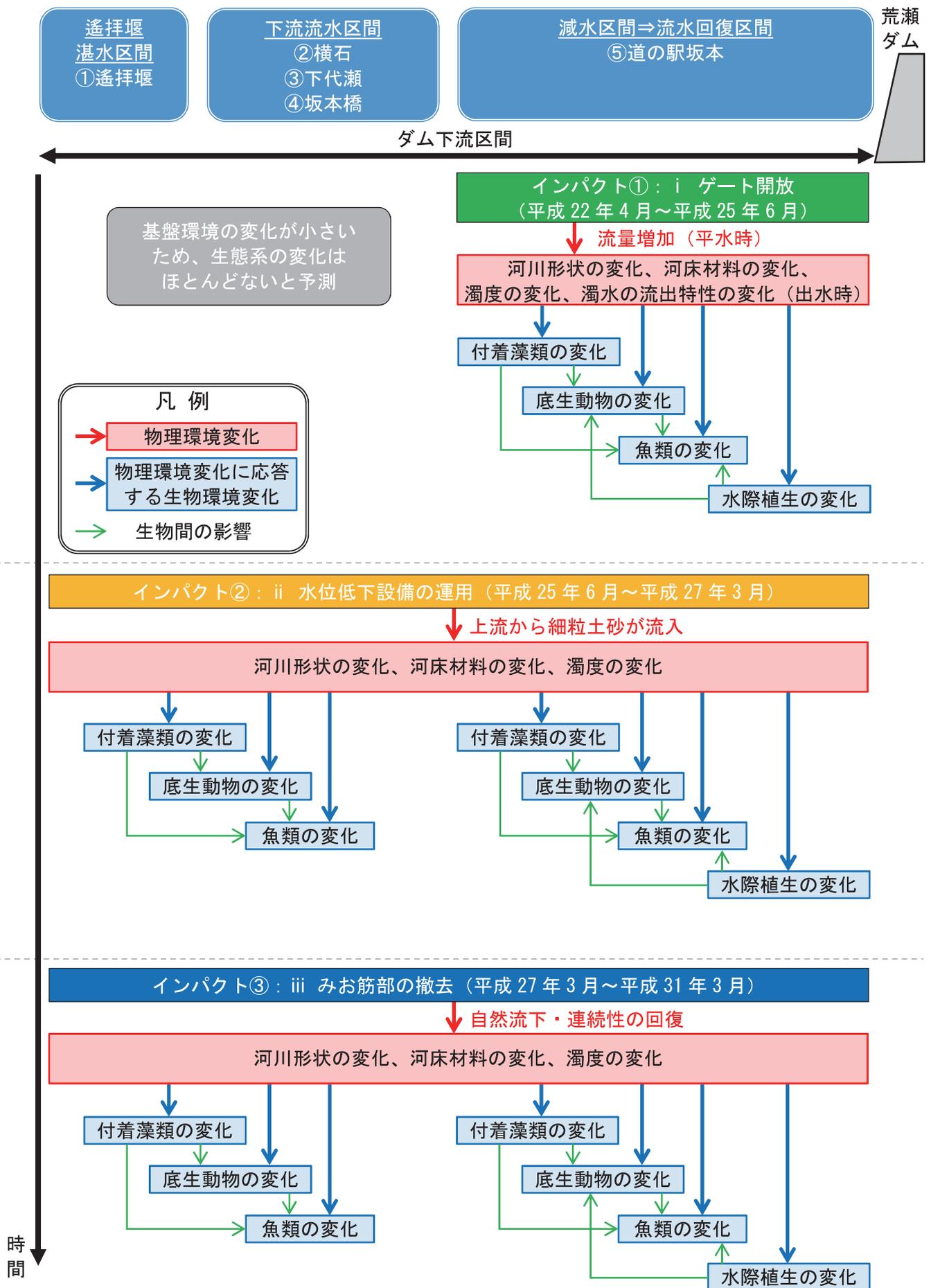


図 3.2.1 荒瀬ダム撤去において想定されたインパクト・レスポンス

